



元気アッププログラム「奥出雲おもち みんなでジャンプ」(松江市立川津小学校)

教育しまね

2011年(平成23年)7月

Vol. 49

島根県教育委員会

特集

1日1時間以上
からだを動かそう

1日1時間以上 からだを動かそう!

確かな学力と豊かな心を育てるためには健康が不可欠です。しかし、子どもたちの体力・運動能力は昭和60年をピークに低下し続けています。このまま低下し続けると健康への悪影響や気力の低下、社会全体の活力が減少するのではないかと心配されます。

そこで島根県では、1日1時間以上運動している児童生徒の体力が、ピーク時の平均値に近いという調査結果をもとに、今年度、「1日1時間以上からだを動かそう!」というスローガンを設定しました。そして、新しくつづつを進めていきます。一つは、各学校の実態にあった体力向上推進計画の作成と実践です。二つめは、体力向上に向け特色ある取り組みを積極的に進める学校を、体力向上推進モデル校として指定し、研究実践を推進していくものです。これらを通して、多くの子どもたちに、体を動かす喜びを感じてもらおうと



元気アッププログラム「隠岐の牛突きかべ突きバス」(斐川町立出東小学校)

※元気アッププログラムとは、子どもたちの運動意欲と体力の向上を目指して、県保健体育課で提案している運動です。詳細は保健体育課HPをご覧ください。



元気アッププログラム「島根県民 思いやりの対面バス」(安来市立南小学校)



リズムに合わせて元気アップ・ダンス(吉賀町立柿木小学校)

INFORMATION

初めての開催

第1回(平成23年度)島根県神話絵画コンクール

島 根県の「神々の国しまね」プロジェクトの一環として行います。神話を語り聞いたりした体験や、神楽を見たり演じたりした体験などから思い浮かんだことを絵画に表現して神話の時代に思いをはせたり、郷土の素晴らしさを改めて知ったりすることで、島根を愛する心を育むことを目的としています。

小学校1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部、中学生の部を設け、各部門の上位入賞者には、知事室で行う表彰式で、作品を楯にした記念のプレートを贈呈します。また、県内5か所で作品の展示会を開催します。

作品は各学校を通して9月15日までに応募してください。詳しくは各学校の先生か、義務教育課(0852-22-5576)まで問い合わせください。

しまね人権フェスティバル2011を開催します。

同時開催 人権・同和問題を考える県民のつどい

期日/7月24日(日)

時間/午前9時~午後3時30分

会場/くまびきメッセ(松江市)

内容/◎村崎太郎さん講演会「トーク&猿回し」

◎スサノオマジック選手による一日人権擁護委員活動

◎松江東高校プラスバンドによるオープニング演奏

◎松江市立女子高校生徒会によるエイズ啓発活動

◎人権課題啓発・ワークショップ・飲食ブース等多彩なブース出展



▲村崎太郎さん講演会「トーク&猿回し」

お子様と一緒に楽しみながら、身近な人権課題について考えてみませんか。ご来場をお待ちしています。

◎お問い合わせ先 島根県人権啓発推進センター TEL 0852-22-6476

育てよう!しまねの未来を担う青少年

「しまね青少年プラン(ササノオプラン)」を改定しました。

青 少年は未来の地域社会を支えていけるかえのない存在です。しかし、青少年を取り巻く社会環境が大きく変化する中、児童虐待や不登校、ニート、ひきこもりなど困難を抱えている青少年の問題がクローズアップされています。

このような状況を踏まえ、島根県では「しまね青少年プラン」を改定しました。プランではしまねの青少年の「育ち」をすべての大人が支援していく取組を進めるため、「ササノオ」を提唱しています。皆様のしまねの青少年への積極的な関わりと行動をお願いいたします。

◆青少年育成に向けた視点◆

ス 健全育成の「すそ野」を広げる~大人の意識改革の推進~

サ 誰も「参画」を促す~青少年は地域で育む~

シ 青少年の「能力」を活かす~青少年の社会参画の促進~

オ 自然や年長者の「恩恵」を受ける~島根の特徴を活かした青少年育成~

◎お問い合わせ先 島根県青少年家庭課青少年育成スタッフ TEL 0852-22-6524



▲しまね青少年プラン

県立施設の企画展等のお知らせ(7月~2月)

施設名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
県立図書館(0852-22-5725)	離島の魅力(7/8~8/3)	おすすめしたい子どものほん2011(8/5~9/7)	女性の時代(9/9~10/5)	日本の道徳・巡礼(10/7~11/3)	島根スサノオマジック選手おすすめの本の展示(11/5~11/30)	大正時代を知る(12/2~12/27)	トイレ・便所・厩(1/5~2/1)	森鷗外生誕150年(2/3~2/29)
県立青少年の家(0853-69-1316)	サン・レイクフェスティバル(10/16) 小学生を対象とした事業 年3回 家族を対象とした事業 年3回 詳しくはホームページをご覧ください。							
県立少年自然の家(0855-52-0716)	子ども探検隊in自然の家(10/1~10/2)	わくわく森もりランドin江津(11/5~11/6)	森と海のつどい(第2回)(11/26~11/27)	オープンデー(秋の部)(10/15~10/16) 森と海のつどい(第1回)(11/12~11/13) ジュニア・ウィンター・キャンプ(12/25~12/27)				
古代出雲歴史博物館(0853-53-8600)	観音巡礼-中国路の古寺と仏像-(7/22~9/25)		たたら製鉄と近代の幕開け(10/7~12/18)		備前焼展-土と炎の芸術-(12/28~2/26)			
八雲立つ風土記の丘(0852-23-2485)	ミニ企画展 古代の謎を解き明かせ!(7/16~9/4)		企画展 出雲型子持傘の世界(9/17~11/13)		ミニ企画展 神話に遊ぶ~身近な神話作品にふれる~(12/21~2/12)			
県立美術館(0852-55-4700)	松岡映丘展(6/10~7/18)		芥沢経介展(7/29~9/5)		県展(11/19~11/27)		日本伝統工芸展~人間国宝から新進作家まで~(12/7~12/25) 伊東深木展(1/2~2/13)	
石見美術館(0856-31-1860)	スウィングン・ロンドン50's-60's ビートルズとミスカーに憧れた青春(7/9~9/12)		雪舟 花鳥を描く(仮)(10/22~11/23)		日本のわざと美(12/17~1/22)		mitelね。しまね(2/11~3/26)	
三瓶自然館サヒメル(0854-86-0500)	夏の特別企画展「館物~きらり、地球の造形美~」 「プラネタリウム新番組「秘密結社 嵐の爪 THE PLANETARIUM~ぶらぶらブラックホールのナゾ~」(7/16~9/25)				自然を楽しむ科学の目(12/10~1/30)			
宍道湖自然館ゴビウス(0853-63-7100)	「はぜ学のスズメ~汽水・淡水域のハゼ~」(7/23~9/5)		ゴビウスは開館10周年を迎えました!ぜひホームページもご覧ください。		「すいぞくの色と模様」(仮)(12/17~2/6)			
しまね海洋館アクアス(0855-28-3900)	わんぱく探検隊(7/16~8/31) ※お盆期間中はお休みします。 特別展「UP~ぶ」(4/23~8/31)							



▲キッズチャレンジ「川歩き」
「自分の課題にチャレンジする中で、まざまま子どもたちは、さまざまな課題にチャレンジしている。昨年参加した子どもたちは、まださまざまな課題にチャレンジしている。昨年参加した子どもたちは、まださまざまな課題にチャレンジしている。」

サン・レイクでは、小学生の体験を広げ「生きる力」の育成の一助とするため、個人で参加できる宿泊体験の機会を提供しています。この事業は、「サマーチャレンジ」「キッズチャレンジ(夏・冬)」とい



▲春のフェスティバル「ぐるぐるパン」

▲青少年の家 サン・レイク

5 教育委員会だより

5月25日に松江東高校、大東高校、横田高校を3名校で、授業風景や図書館・体育館などの視察をし、教育活動や地域との連携などについて説明を受けました。横田高校では、地域の生徒数が減少する中で、県内外から積極的に生徒を募集し、高校の魅力化・活性化に工夫していました。新しくなったホッケー場では体育の授業が行われており、生徒たちの生き生きとした姿を見ることができました。

教育委員会では昨年度から委員による学校現場の視察を行っています。(数年をかけて、全ての高校を視察する予定です。視察を通して、教育現場への理解を深め、教育行政に生かしていきます。



▲ホッケー場の視察(横田高校)

楽しみながら体力向上

各学校では、学校の実態に合わせ、特色ある取り組みで児童生徒の体力向上を図っています。

雲

南市立寺領小学校では、体力向上に向け、授業づくりや環境づくりを進めています。授業づくりでは、学習資料を工夫したりグループ学習を取り入れたたりして、子どもたちが主体的に活動し課題解決していける授業を目指しています。環境づくりでは、掲示物を工夫したり、子どもたちにとって運動しやすい環境を整備したりしています。その他にも、業間休みや昼休みに異学年遊びや、ペア学年遊びを設定して遊びを通して体力づくりも行っています。



▲遊びを通じて体力アップ（雲南市立寺領小学校）

江

津市立江津中学校では、生徒たちが学び合い高め合いながら、運動に親しみ楽しむ態度を身につけられるよう、授業づくりや家庭・地域との連携を進めています。授業では、体育ノートや学習カードなどを工夫して、生徒一人一人が課題をはっきりさせて自主的に取り組めるような授業を目指しています。また、運動の日常化を促すために、PTAの研修会や学校便り、HP等で生徒の体力や運動への興味関心等の情報を発信したり、地域行事への参画や参加を勧めたりしていきます。



▲体育の授業で体力アップ（江津市立江津中学校）



学習に向かう力を育てるための見取りと体づくりの提案

子

子どもの体力の低下や人とかかわり合う経験の不足などが懸念されています。県内の学校の様子を見ても、自分の体を思うように動かしにくかったり、人の話をしっかり聞いて、人に合わせて行動したりすることが苦手な子どもたちが少なくないようです。

そこで、島根県教育センター教育相談スタッフ特別支援教育セクションでは、平成20年度からの3年間で「学習に向かう力を育てるための見取りと体づくりの提案」小学校低学年の読み書きと学習規律の基盤を整える」という調査研究を行い、松江市内の研究協力校（小学校）と共に、子どもの体の様子と学習や集団生活との関連を調べ、そのデータを基に子どもの体の基盤を整える活動を一緒に考えました。



▲授業の始めに音楽に合わせてサーキット

研究協力校は、学習や生活に向かう力の基盤を整えることを目指した体づくりに取り組み、体育の時間を一緒に考えました。

その結果、集会時をはじめ学校生活全般や学習態度に落ち着きが出てきたり、校内で怪我をする児童の数が減るなどの成果が表れてきました。協力校では今年度も引き続き、学習に向かうことができる体づくりの実践研究を行い、確かに学び、共に伸びていこうとする子どもたちの育成を目指しています。



▲「ここからだを向けて話を聞く」全校集会



▲縦割りでの集団遊び

小学校の授業が変わります

外国語活動 伝え合う楽しさを



▲外国語活動の様子（隠岐の島町立北小学校）

新

学習指導要領の全面実施にあわせて、本年度から小学校の教科書が新しくなりました。新しい教科書では、新学習指導要領で多くの学習内容が増加したことを受け、従来と比べて、ページ数が平均で25%増加しました。この教科書のページ数の増加は、学習内容の拡充によるものだけでなく、発展的学習や振り返り学習など、児童生徒の理解の程度に応じるための様々な工夫が取り入れられていることにもよります。したがって、教科書に記述された内容をすべて教えなければならぬというものはなく、教員の創意工夫により児童生徒の理解の程度に応じて充実した教科書の指導が行われるよう、新しい教科書を活用した教育を推進します。

- ① 説明・報告・紹介・討論などの言語活動（国語）
- ② ことわざや慣用句（国語）
- ③ 47都道府県、主な国の名称と位置（社会）
- ④ 縄文時代の文化（社会）
- ⑤ 裁判員制度（社会）
- ⑥ 算数的活動を重視した課題（算数）
- ⑦ 練習問題や補充問題（算数）
- ⑧ 実生活・実社会と関連付けた課題・題材（理科）
- ⑨ 観察・実験（理科）

新しい小学校教科書で充実した内容の例

東日本大震災被災者への支援

被災地域からの児童の受け入れ

島根県の公立学校では、6月1日現在で、東日本大震災で被災された地域から47人の児童・生徒を受け入れていきます。

根県の公立学校では、6月1日現在で、東日本大震災で被災された地域から47人の児童・生徒を受け入れていきます。福島県から5年生の高田華奈江さんと2年生の「一安さんが家族とともに引越してきました。二人が転入した大田市立仁摩小学校では、早く同級生と仲良くなれるようにと春休みのうちに職員全員で受け入れについて話し合いました。そして、転入する二人にとって、学校で楽しく過ごせることが一番だと考え、なるべく自然に接することにしました。また、二人の学用品が不足していることが分かったため、学校が始まる前に、地元業者の方から無償で体操服や教材等の学用品を提供していただきました。



▲丹里小学校5年生の子どもたち

自分ができること運動

今、5年生は「よさこいソーラードリ」の練習に励んでいます。この踊りは大田市内の夏祭り披露され、あわせて義援金の募金活動も予定されています。その時に児童が着る法被は、現在、大田と宅野のまちづくりセンターで活動するグループの協力で作られています。児童はこの踊りを福島県の人たちにも見せてもらいたいという思い、地元への思いを得て、協力を得て、インターネットの動画サイトでも公開することも考えています。

3月11日に発生した東日本大震災の様子をテレビニュースなどで知った安来市立母里小学校5年生の児童達は、心を痛め、何かできることはないかと考えていました。そこで、みんなで話し合い、避難所で生活する子ども達も、少しでも楽しく過ごすことができました。5年生が全校児童に「自分ができること運動」への協力をお願いの手紙を出すこと、次の日から本や文房具等が次々と教室に届くようになりました。そしてたくさんの人たちが、同じように何かできることはないかと思っているのことがわかりました。家にあつたものほか、自分も小遣いで買ったものを届けた児童もいました。こうして集まった、サッカーボール5個、絵本、文房具等を入れた段ボール4箱は、5年生の児童達が自分の思いを綴った手紙とともに5月30日に宮城県多賀城市総合体育館に向け発送されました。

ふるまい向上プロジェクト

「きらきらふるまい みんなにここに」「みんなきらきらふるまいめいじん」ができました



島

根県教育委員会では、学校、家庭、地域が一体となって幼児期、児童期のふるまい向上の推進をはかるための資料として、すべての5歳児を対象に「きらきらふるまい みんなにここに」をすべての小一児童を対象に「みんなきらきらふるまいめいじん」を作成し配付しました。

小

学校版では、児童のみならずが円滑に小学校生活をスタートすることができるために、小学校入学時から身に付けたいこと、取り組んでおきたいことなどをとりあげました。どちらの資料も、基本的な生活習慣づくりや人間関係づくり、規範意識や公共心などをとりあげています。今後一人一人の子どものための幸せのために、「ふるまい向上」を合言葉に社会全体で取り組んでまいります。



根県教育委員会では、学校、家庭、地域が一体となって幼児期、児童期のふるまい向上の推進をはかるための資料として、すべての5歳児を対象に「きらきらふるまい みんなにここに」をすべての小一児童を対象に「みんなきらきらふるまいめいじん」を作成し配付しました。



▲「どんなあいさつをしているのかなあ」一生懸命考える子どもたち（横田幼稚園）

研

修会では、ふるまい向上の講演会をはじめ、親学プログラムの体験講座を行いました。特に親学プログラムは、西部社会教育研修センターの社会



▲演習に熱心に取組む保護者の皆さん

PTA研修会は、子育てをいっしょに考える会！

浜

田市立松原小 学校では、児童と教職員がいっしょに企画したあいさつ運動やトイレのスリッパそろえ、掃除など力をいれて取り組んでいます。さらに、保護者を対象として、公開授業後に「ふるまい向上」をテーマにPTA研修会を開催しました。

修会では、ふるまい向上の講演会をはじめ、親学プログラムの体験講座を行いました。特に親学プログラムは、西部社会教育研修センターの社会

教育主事を指導者として、参加者は演習を通して自らの「ふるまい」を見つめ直したり、自分の子育てを振り返り悩みを他の参加者と共有したりするなど、参加した保護者同士がつながりを深めるよい機会となりました。

